

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第36週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 666 人（定点あたり 21.3）で、前週比 82%と減少した。

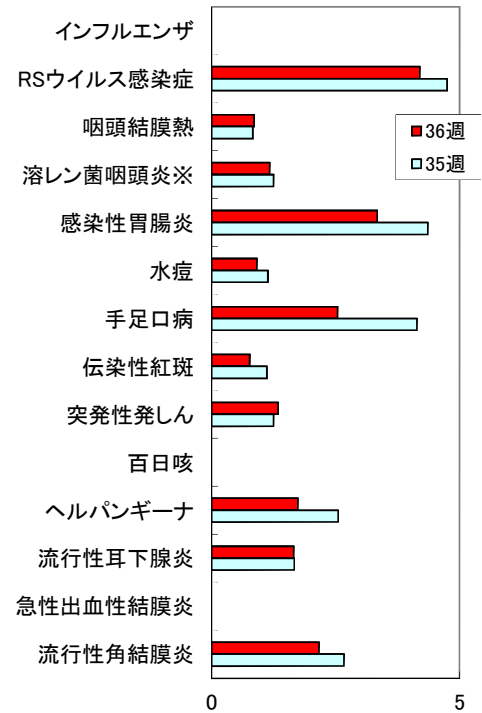
前週に比べ増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。

RSウイルス感染症の報告数は 147 人（4.2）で前週比 88%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値（0.47）の約 9 倍である。日向（12.0）、延岡（8.8）保健所からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

細菌性髄膜炎 1 人が日南保健所から報告された。患者は 70 歳代の女性で原因菌は *Staphylococcus epidermidis* であった。

マイコプラズマ肺炎 3 人が延岡（2 人）、日南（1 人）保健所から報告された。3 歳の男児、7 歳の男児、80 歳代の男性で病原体は全て *Mycoplasma pneumoniae* であった。

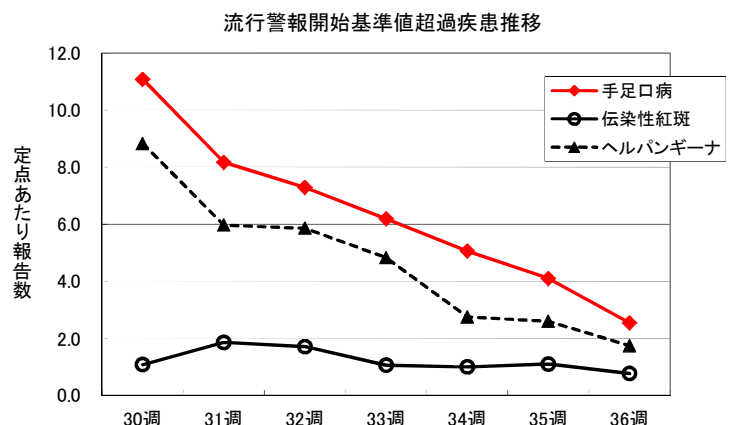
《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	ヘルパンギーナ(7.8)
日南	咽頭結膜熱(3.0)
小林	手足口病(5.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	伝染性紅斑(2.8)
中央	ヘルパンギーナ(6.0)



※伝染性紅斑は、平成 23 年 3 月 3 日に流行警報開始基準値 2 を上回ったので流行警報を発令しましたが、第 36 週において終息基準値 1 を下回った（0.77）ので、警報を解除します。

※ヘルパンギーナは、平成 23 年 7 月 7 日に流行警報開始基準値 6 を上回ったので流行警報を発令しましたが、第 36 週において終息基準値 2 を下回った（1.74）ので、警報を解除します。

□ 疾患別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.9	日南(3.0)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	2.5	小林(5.7)	6ヶ月～3歳で全体の約8割を占めた。
伝染性紅斑	2	0.8	日向(2.8)	3歳～6歳で全体の約8割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	1.7	延岡(7.8)、中央(6.0)	6ヶ月～3歳で全体の約9割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が宮崎市保健所から報告された。
 - ・ 70 歳代の男性で肺結核。咳がみられた。
 - ・ 80 歳代の女性で肺結核。発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が都城保健所から報告された。30 歳代の女性で腹痛、水様性下痢、血便、発熱がみられた。原因菌は O103 (VT 産生)。
- 4 類感染症 : ○レプトスピラ症 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の女性で発熱、結膜充血、蛋白尿がみられた。
- 5 類感染症 : ○後天性免疫不全症候群 1 例が延岡保健所から報告された。20 歳代の男性で無症候性キャリア。
○梅毒 1 例が高鍋保健所から報告された。30 歳代の女性で無症状病原体保有者。

■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

□ 細菌 (平成 23 年 8 月 30 日～平成 23 年 9 月 12 日までに検出)

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O145:HUT VT1,2)	60代後半	男	2011.8.20	EHEC疑、下痢、血便、腹痛	便	2011.9.2
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0～4	女	2011.8.22	下痢、血便、嘔吐	便	2011.9.1
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0～4	男	2011.8.25	無症状	便	2011.9.1
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	5～9	男	2011.8.24		便	2011.8.30
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	5～9	男	2011.8.29		便	2011.9.2
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	5～9	男	2011.8.28	HUS、下痢、血便、腹痛、点状出血	便	2011.9.7
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0～4	男	2011.9.3	EHEC	便	2011.9.9

○HUS、下痢あるいは無症状の乳幼児4名から腸管出血性大腸菌(EHEC) O157 (VT2)が分離された。国立感染症情報センター(IASR)によると2000年～2009年のO157のVT型別累計では、VT1とVT2の両方とも陽性が65%を占め、VT2のみ陽性は約34%である。VT1のみ陽性は1.4%である。

○Salmonella Saintpaulが小児2人から検出された。IASRの報告によると2007年～2011年のサルモネラ血清型別検出数では、常に上位5番以内の報告数である。

□ ウイルス（平成 23 年 8 月 30 日～平成 23 年 9 月 12 日までに検出）

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスB1型	1M	男	7.5	無菌性髄膜炎(頸部硬直)・ウイルス感染症疑い、38.5℃	咽頭ぬぐい液	8.30
コクサッキーウイルスB1型	4	男	7.7	無菌性髄膜炎(頸部硬直)、40.0℃、嘔気・嘔吐	髄液	8.30
コクサッキーウイルスB1型	0	男	7.22	髄膜炎(ウイルス性疑い)、38.6℃	髄液	8.30
コクサッキーウイルスA16型	2	女	8.9	典型的手足口病、37.6℃、口内炎、水疱、丘疹、紅斑	咽頭ぬぐい液	9.2
コクサッキーウイルスA16型	1	男	8.22	手足口病、口内炎、水疱、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	9.8
コクサッキーウイルスA16型	2	女	8.22	手足口病 再発?、口内炎、水疱、発疹	咽頭ぬぐい液	8.31
コクサッキーウイルスA16型	1	男	8.23	手足口病 再発、口内炎、水疱、発疹	咽頭ぬぐい液・水疱	8.31
コクサッキーウイルスA16型	8	男	8.26	汎発型手足口病、38.5℃、水疱	咽頭ぬぐい液・水疱(右前腕)	9.8
コクサッキーウイルスA16型	1	男	8.29	手足口病(2回目)、口内炎、水疱	咽頭ぬぐい液	9.7
コクサッキーウイルスA16型	1	女	8.29	手足口病(2回目)、口内炎、水疱	咽頭ぬぐい液	9.7
コクサッキーウイルスA16型	27	男	8.3	手足口病、口内炎、水疱	咽頭ぬぐい液	9.7
コクサッキーウイルスA6型	5M	女	7.8	汎発型手足口病、水疱	咽頭ぬぐい液	9.7
コクサッキーウイルスA6型	1	男	8.10	手足口病、39.0℃、口内炎、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	9.2
コクサッキーウイルスA6型	9	男	8.19	ヘルパンギーナ(?), 38.6℃、咽頭炎	咽頭ぬぐい液	8.30
ライノウイルス・コクサッキーウイルスA6型	1	女	7.2	ウイルス発疹症(丘疹)、39.0℃、上気道炎	鼻汁	9.2

○無菌性髄膜炎の乳幼児の咽頭ぬぐい液と髄液からコクサッキーウイルスB1型(CoxB1)が分離された。本県では、4月以降、CoxB1型はすでに4例分離されており、無菌性髄膜炎を呈した新生児からの分離が主であった。また、全国の無菌性髄膜炎患者由来のウイルス別報告数では、CoxB1が最も多く検出されている。

○手足口病と診断された小児7名及び成人1名からコクサッキーウイルスA16型が分離された。このうち小児4名は、約1ヶ月前に手足口病を発症し、コクサッキーウイルスA6型が検出されており、異なる型のコクサッキーウイルスの感染がおこったと考えられる。本年、全国的に手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスA6型が圧倒的に多いが、コクサッキーウイルスA16型も検出されている。

○手足口病またはヘルパンギーナと診断された乳児1名、小児2名からコクサッキーウイルスA6型が検出された。

○ウイルス発疹症の小児からライノウイルスとコクサッキーウイルスA6型が検出され、混合感染が疑われた。

■ 全国第 35 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 14.7 で、前週比 104%と横ばいであった。今週増加した主な疾患は R S ウイルス感染症と手足口病で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

R S ウイルス感染症の報告数は 1,242 人 (0.40) で、前週比 138%であった。宮崎県 (4.8)、香川県 (2.1)、徳島県 (1.7) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下が全体の約 9 割を占めた。

手足口病の報告数は 13,797 人 (4.4) で、前週比 111%と増加した。秋田県 (16.2)、青森県 (12.9)、山形県 (10.8) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 6 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 398 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 24 例、腸管出血性大腸菌感染症 117 例、パラチフス 1 例
- 4 類感染症 : E型肝炎 2 例、A型肝炎 1 例、つつが虫病 2 例、デング熱 2 例、日本紅斑熱 3 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 22 例、レプトスピラ症 1 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 12 例、クリプトスポリジウム症 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 18 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 13 例、破傷風 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風しん 7 例、麻疹 4 例

■月報告対象疾患の発生動向 <8月>

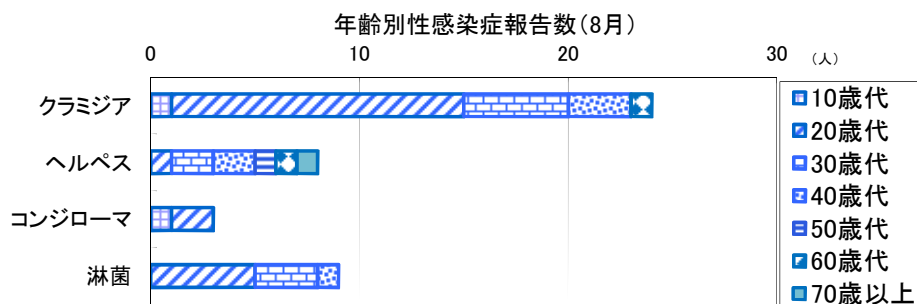
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は44人（3.4）で、前月比86%と減少した。また、昨年8月（4.9）の約7割と少なかった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数24人（1.9）で、前月の約7割、前年の約6割であった。日向（4.0）、延岡（2.5）保健所からの報告が多く、男性・女性各12人で、20歳代が全体の約6割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数8人（0.62）で、前月の約1.6倍、前年の約9割であった。男性3人・女性5人で、30歳代・40歳代が各2人、20歳代・50歳代・60歳代・70歳以上が各1人であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数3人（0.23）で、前月の1.5倍、前年と同数であった。男性2人・女性1人で、20歳代が2人、10歳代が1人であった。
- 淋菌感染症：報告数9人（0.69）で、前月の約8割、前年の約6割であった。すべて男性で、20歳代が全体の約6割、30歳代が約3割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：967

定点医療機関からの報告総数は4,575人（4.7）で、前月比107%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,321人（2.4）で前月比105%、性器ヘルペスウイルス感染症741人（0.77）で前月比103%、尖圭コンジローマ483人（0.50）で前月比114%、淋菌感染症1,030人（1.1）で前月比110%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は36人（5.1）で前月比78%と減少した。また昨年8月（5.4）の約9割であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数32人（4.6）で、前月の約8割、前年と同数であった。宮崎市（9.0）、高鍋（8.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約6割、5歳未満が約3割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数3人（0.43）で、前月の約6割、前年の約半数であった。延岡（2.0）、高鍋（1.0）保健所からの報告であった。60歳代が2人、70歳以上が1人であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数は1人（0.14）で前月と同数であった。70歳以上の男性であった。
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：467

定点医療機関からの報告総数は2,513人（5.4）で、前月比111%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2,148人（4.6）で前月比114%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症315人（0.67）で前月比99%、薬剤耐性緑膿菌感染症45人（0.10）で前月比91%、薬剤耐性アシネトバクター感染症5人（0.01）であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2011年 第36週(09月05日～09月11日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	171	147	22	32	35	4		6		48	
	定点あたり	4.75	4.20	2.44	5.33	8.75	1.33	0.00	1.50	0.00	12.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	30	30			11	9	2	2		6	
	定点あたり	0.83	0.86	0.00	0.00	2.75	3.00	0.67	0.50	0.00	1.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	45	41	9	1	18	3		6		3	1
	定点あたり	1.25	1.17	1.00	0.17	4.50	1.00	0.00	1.50	0.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	157	117	11	22	1	18	29	12	5	17	2
	定点あたり	4.36	3.34	1.22	3.67	0.25	6.00	9.67	3.00	5.00	4.25	2.00
水痘	報告数	41	32	8	8	4	1	3	3	2	3	
	定点あたり	1.14	0.91	0.89	1.33	1.00	0.33	1.00	0.75	2.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	149	89	33	9	1	3	17	13	2	11	
	定点あたり	4.14	2.54	3.67	1.50	0.25	1.00	5.67	3.25	2.00	2.75	0.00
伝染性紅斑	報告数	40	27	2	6	5	3				11	
	定点あたり	1.11	0.77	0.22	1.00	1.25	1.00	0.00	0.00	0.00	2.75	0.00
突発性発しん	報告数	45	47	12	6	9	4	4	7		5	
	定点あたり	1.25	1.34	1.33	1.00	2.25	1.33	1.33	1.75	0.00	1.25	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	92	61	2	7	31	6		4		5	6
	定点あたり	2.56	1.74	0.22	1.17	7.75	2.00	0.00	1.00	0.00	1.25	6.00
流行性耳下腺炎	報告数	60	58	34	4		4	1	12		1	2
	定点あたり	1.67	1.66	3.78	0.67	0.00	1.33	0.33	3.00	0.00	0.25	2.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	16	13	6	3	4						
	定点あたり	2.67	2.17	2.00	1.50	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	3			2	1					
	定点あたり	0.14	0.43	0.00	0.00	2.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2011年第1週～36週)

2類感染症	結核	200例(2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	51例(1)				
4類感染症	A型肝炎	1例	チクングニア熱	1例	つつが虫病	2例
	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	1例	レプトスピラ症	2例(1)
5類感染症	アメーバ赤痢	9例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	5例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	髄膜炎菌性髄膜炎	2例	後天性免疫不全症候群	9例(1)
	梅毒	8例(1)	破傷風	7例	風しん	1例
	麻しん	1例				

●動物感染症累積報告数(2011年1週～36週)(参考)

指定感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	20例
-------	-------------------	-----

()内は今週届出分、再掲